

飯田伊那

天竜川舟下り「より快適に」

新たに舟2隻 進行方向見やすく

飯田の会社 6日に進水式

飯田市の天竜川で「天竜川和船下り」を運航する南信州リゾート(飯田市)は6日、新たに完成した木造の舟2隻の進水式と安全祈願を開く。舟は船頭3人が昨年12月から製作。従来より全長を3.5ほど短くした9.5の舟に、進行方向が見やすい座席を取り付けた。同市松尾新井のリバーポート弁天で6日午前9時半から1隻を初運航する。

これまでの船は大人数の団体客を想定した造りだったが、近年は少人数で訪れる観光客が増加。信南交通(同)から事業を継承し、昨年からの営業する南信州リゾートが新

たに小型の舟を建造した。事業が休止する冬季期間に船頭3人が舟の製作を進めて2月末に完成させ、3月末に運航に必要な検査を終えた。

これまでは客が向かい合わせに座る板の座席だったが、新造した舟は進行方向に向いた椅子を設けた。木下明支配人(58)は「より快適に舟下りを楽しめると思う。ぜひ乗ってみてほしい」と話す。

同社の運航開始1周年を記念し、今月15日までは大人2800円の特別料金で乗船できる。問い合わせは南信州リゾート(☎0265・49・0075)へ。



船頭が製作した「天竜川和船下り」の新しい舟

南箕輪の森クイズで親しむ

信大農学部 アプリの音声頼りに歩き

信州大農学部(南箕輪村)で1日まで2日間、スマートフォンアプリを通して聞こえる音声を頼りに森を歩き、動植物に関するクイズに答えるイベントが開かれた。信大発ベンチャー「精密林業計測

(伊那市)などが、森林に親しんでもらう狙いで開発したアプリを使ったイベントで、2日間で親子連れなど約30人が参加。同学部の演習林に設定された音声が行れるスポットを探し、配布された紙の空欄に答えを埋めていった。アプリは、精密林業計測、榎山女学園大(名古屋市)の村上心教授(建築学)研究室、民間企業が連携して開発。アプリには演習林の地図と10のスポットが示され、ヒノキやニホンカモシカなど動植物のクイズが用意されている。スポットを通過すると「カラマツは日本に生えている針葉樹の中では唯一の落葉樹です」

担当犬と成長を新たな一歩

宮田の聴導犬・介助犬訓練士学院 卒業式・入学式



卒業発表で担当犬との歩みを話す勝保さん(左奥)と発表を聞く塩谷さん

宮田村の日本聴導犬協会付属日本聴導犬・介助犬訓練士学院は1日、第15期生の卒業式と第16期生の入学式を開いた。犬の訓練方法などを1年間学んだ1人と、新たに同学院で学ぶ1人がそれぞれ気持ちを新たにした。

卒業する勝保萌香さん(19)は千葉県出身。高校卒業後、同学院に入学した。担当した犬は当初、人に触れて音を知らせることができなかったが、今では聴導犬としての動きをほぼ完璧にできるようになったという。11日から同協会が訓練スタッフとして働く予定で、「また担当犬と一緒に成長していきたい」と意気込んだ。

入学した塩谷里子さん(45)は浜松市出身。20年以上テレビ番組の制作に携わった。犬好きで、テレビや雑誌で人を手助けする補助犬を見て感銘を受け、入学を決めたという。塩谷さんは「犬の知識はもちろん、障害者のサポートや動物福祉についても知識を深めたい」と話した。



森林を歩き、流れてくる音声を頼りにクイズに解答する参加者

といった答えにつながる音声が流れる仕組みだ。

オオルリなど野鳥の鳴き声が立体的に聞こえる技術も用いられ、参加者はイヤホンから聞こえる鳴き声に「ピュウって鳴いた。かわいいね」などと言いながらクイズに挑んだ。3月31日に家族で参加した南箕輪村の主婦宮脇恵里さん(42)は「クイズは解きやすくストレスなくできた。鳴き声も森の中から聞こえてくる感じがすごい」と話した。

精密林業計測などは今後、開発したアプリを各地の森林セブピーなどで活用することを検討するという。

「理髪業の祖」飯田で神事



飯田伊那理容師会は1日、飯田市吉富町

▼県道園原イから片側交互通 県飯田建設事 路脇斜面の崩落 全面通行止めと